

シンガポール*

国際動向・戦略分析グループ 研究員 張 悦

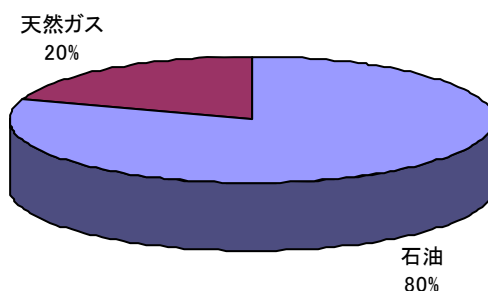
1. サマリー

1. エネルギー事情

シンガポールの一次エネルギー供給の約 8 割が石油、2 割がガスである。石油の約 7 割を中東に依存し、ガスはマレーシアやインドネシアから輸入している。

- (1) 一次エネルギー供給量：石油換算 3,010 万トン (2005 年)
- (2) 一人当たり一次エネルギー供給量：5.57 トン (2005 年)
- (3) エネルギー自給率：0% (2005 年)
- (4) エネルギー起源 CO2 排出量：二酸化炭素 4,310 万トン (2005 年)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO2 排出量：二酸化炭素 9.93 トン/人 (2005 年)
- (6) エネルギー別可採年数：原油 0 年、天然ガス 0 年、石炭 0 年

一次エネルギー源供給構成 (2005 年)



(出所) IEA, 「Energy Balances of Non-OECD Countries 2004-2005」 2007 Edition.

2. エネルギー政策のポイント

- (1) エネルギー政策担当機関
 - エネルギー政策の立案・実行機関は通商産業省 (MTI : Ministry of Trade and Industry) である。同省経営資源部が、電力・ガスを含むエネルギー安定供給の確保等を担当する。
- (2) 基本政策

*平成 19 年度に経済産業省資源エネルギー庁より受託して実施した受託研究の一部である。この度、経済産業省の許可を得て公表できることとなった。経済産業省関係者のご理解・ご協力に謝意を表すものである。

- 一次エネルギー源の多様化および供給源の分散化、エネルギー利用の効率化による環境問題、電力およびガス部門の構造改革等への取り組みを重要な政策課題とする。

(3)最近の動向

- シンガポール政府(Energy Market Authority)は 2007 年 9 月、2012 年までにシンガポールで初めてとなる LNG 輸入基地を建設、稼働させると発表した。ガス火力拡大により電源構成を多様化するため、LNG を調達することが、主要な目的である。

3. 日本とのエネルギー分野における関係

- シンガポールは日本にとって石油製品輸入の供給源のひとつである。2006 年におけるわが国のシンガポールからの石油製品輸入量はガソリン 1,443.5 千 KL、ナフサ 1,052.9 千 KL、灯油 22.1 千 KL、B・C 重油 399.3 千 KL、の 4 製品計 291.8 万 KL となっている。
- シンガポールの製造業における日本企業の投資は増加しているが、エネルギー部門における投資はあまり見られない。

2. 主要エネルギー指標

(1) 一次エネルギー供給量	30.1	石油換算百万トン
(2) 一人当たりの一次エネルギー供給	5.57	石油換算トン/人
(3) GDP 当たりの一次エネルギー供給	0.25	石油換算トン/千ドル
(4) エネルギー自給率	0	%
(5) エネルギー起源CO ₂ 排出量	43.1	二酸化炭素百万トン
(6) 一人当たりエネルギー起源CO ₂ 排出量	9.93	二酸化炭素トン/人
(7) エネルギー源別構成率	石炭	0.0 %
	石油	80.3 %
	ガス	19.7 %
	原子力	0.0 %
	水力	0.0 %
	再生可能エネルギー等	0.0 %
(8) エネルギーの輸入依存度	100.0	%
(9) 石油の輸入依存度	100.0	%
(10) 輸入原油の中東依存度 (2004 年)	74.8	%
(11) 原油輸入先 (2004 年)	第 1 位	サウジアラビア
	第 2 位	カタール
	第 3 位	クウェート

出所：(1)～(4) および (7)～(9) は IEA-「Energy Balances of non-OECD Countries」2004-2005 2007 Edition

(5)～(6) は IEA-「CO₂ Emissions from Fuel Combustion 1971-2005」2007 Edition

(10)～(11) は Blackwell-「World Oil Trade: An Annual Analysis and Statistical Review of International Oil Movements」SEPTEMBER 2007